



2025年 12月5日 金曜日
(令和7年)

知・技の創造

ものづくり大学発

▷119◁

荒井 豊

情報メカトロニクス学科教授

ものづくりの原点

トヨタ自動車で36年間、生産現場に携わり、改善や人材育成に取り組んできました。今年4月から大学に移り、若い学生と向き合つ中で、改めて「ものづくりの本質をどう伝えるか」を深く考えるようになりました。

戦後の日本経済を支えてきたのは製造業、とりわけ自動車産業です。その中心にある「トヨタ生産方式(TPS)」は、「ジャストインタイム」という子の思いがありま



「人が中心であり、人が軸で、人を超越し、『全ての人の幸せ』がある」という考え方を、TPSの源流は、創業者が改良した機械の機にまでさかのぼります。当時、両手で行っていた作業を片手でできるよつに改善した背景には、「母の親の仕事を楽しませてあげたておへん」ことが肝心です。人が工夫しやすい環境を整えることが、持続的な生産性向上につながります。

一方、今の製造業を取り巻く環境は大きく変化しています。人口減少や高齢化、グローバル競争、カーボンニュートラル、人工知能(AI)の急速な進化、未曾有の時代です。これからの100年を見据えるとき、「ものづくりは人づくり」という視点を忘れてはなりません。AIは設計や保全で活躍しますが、現場の気付きや創造的発想は人にしかできません。人の五感「人が中心」であり、「人の幸せ」を追求する姿勢があり、生産性向上は重要ですが、人を犠牲にしては長続きしません。

私が思い出すのは、ものづくりの大学初代会長・豊田章一郎氏の言葉です。「新しいものをつくるために知恵を絞る、仲間と一緒に汗をかき、時間を忘れて熱中する、その瞬間が極めて楽しい」

学内では学生たちが自主的にプロジェクトに挑み、仲間と試行錯誤する姿があります。その姿に、TPSの精神、

あつい・ゆたか 法政大学工学部卒。トヨタ自動車、愛三工業を経て2025年4月より現職。専門はトヨタ生産方式。所属学会は生産管理学会、鋳造工学会

人にはそれぞれの価値観、個性があります。それを受け入れ、多様性を力に変えられ、多様な働き方、これからの製造業に求められる姿です。

学生たちは柔軟な発想を持ちながらも、将来に不安を抱えています。だからこそ伝えたい。「ものづくりは人を幸せにできる仕事である」ということを。埼玉には多くの中小企業があり、地域を支えてきました。私は大学・企業・地域を結び、人を中心としたものづくりを探索し、支援していきたいと思ひます。